

# 東京都環境基本計画のあり方について〈概要〉

## —東京都環境審議会答申—

### 「世界一の環境先進都市・東京」の実現

「長期ビジョン」で掲げた「世界一の都市・東京」を実現するために、環境面においても最高水準を目指す

#### 政策体系・目標設定の考え方

経済成長と環境政策との両立、環境レガシーの形成、持続可能な都市の実現を目指し、政策を展開

- 1 スマートエネルギー都市の実現
- 2 3R・適正処理の促進と「持続可能な資源利用」の推進
- 3 自然豊かで多様な生きものと共生できる都市環境の継承
- 4 快適な大気環境、良質な土壌と水循環の確保
- 5 環境施策の横断的・総合的な取組

#### 目標

- 1 「長期ビジョン」との整合や東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催等を踏まえ、2020年と2030年をターゲットとする。
- 2 中長期的・戦略的な政策展開を図る観点から高い目標を掲示
- 3 具体的な数値による目標やロードマップなどにより都民等に分かりやすく説明

#### パブリックコメントの実施結果

「中間のまとめ」についてパブリックコメントを実施

募集期間 平成27年11月20日から12月15日まで

意見総数 9個人及び10団体 136件

#### 各分野の主な目標、施策の方向性

分野	目標	施策の方向性
スマートエネルギー都市の実現	<ul style="list-style-type: none"> <li>●2030年までに温室効果ガス排出量を30%削減（2000年比） [産業・業務部門] △20%程度 [家庭部門] △20%程度 [運輸部門] △60%程度</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢省エネルギー・エネルギーマネジメント等の推進</li> <li>・オーナーとテナントとの協働による中小テナントビル省エネ促進事業</li> <li>・家庭における住宅の低炭素化推進事業</li> <li>・UDタクシー、次世代自動車の普及促進</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●再生可能エネルギーの利用割合30%程度（2030年）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢再生可能エネルギーの導入拡大</li> <li>・地産地消型再生可能エネルギー導入拡大事業</li> <li>・需要家による再エネ電力選択の仕組みづくり</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●燃料電池自動車普及台数20万台（2030年）</li> <li>●水素ステーション整備箇所数150か所（2030年）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢水素社会実現に向けた取組</li> <li>・水素ステーションの整備促進</li> <li>・燃料電池自動車・バスの普及</li> <li>・中小事業者等に対する技術支援</li> </ul>
3R・適正処理の促進と「持続可能な資源利用」の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>●2030年度の一般廃棄物リサイクル率37%</li> <li>●2030年度に最終処分量を25%削減（2012年度比）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢「持続可能な資源利用」の推進</li> <li>・先進企業等と共同したモデル事業</li> <li>➢静脈ビジネスの発展及び廃棄物の適正処理の促進</li> <li>・新たなスタイルによる公共空間の美化</li> <li>➢災害廃棄物対策の強化</li> </ul>
自然豊かで多様な生きものと共生できる都市環境の継承	<ul style="list-style-type: none"> <li>●保全地域等での自然体験活動参加者数延べ5万人（2030年度）</li> <li>●自然公園の潜在的な魅力の掘り起し</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢生物多様性の保全・緑の創出</li> <li>・花と緑による都市環境の向上</li> <li>➢生物多様性の保全を支える環境整備と裾野の拡大</li> <li>・新たな時代にふさわしい自然公園のあり方検討</li> </ul>
快適な大気環境、良質な土壌と水循環の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>●全ての測定局における光化学オキシダント濃度を0.07ppm以下（2030年度）</li> <li>●真夏に人々の感じる暑さが軽減されるエリアの増加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢大気環境等の更なる向上</li> <li>・暮らしに身近な低VOC商品の選択促進</li> <li>➢化学物質による環境リスクの低減</li> <li>➢水環境・熱環境の向上</li> <li>・クールスポットなど暑熱環境の改善</li> </ul>
環境施策の横断的・総合的な取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>●世界の諸都市との政策情報の交換や技術協力の推進</li> <li>●環境学習、環境広報の充実強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢国内外の都市との連携、区市町村との協働等</li> <li>・世界の諸都市との政策連携・技術協力</li> <li>・学校教育等と連携した環境学習の充実</li> <li>・東京都環境科学研究所の機能強化</li> </ul>